

新任任期付校長インタビュー



堺市立日置荘西小学校長
三浦 嘉子

民間企業・他自治体任期
付校長勤務等を経て、
令和8年4月から現職

令和8年4月に堺市の任期付校長に採用された三浦校長に、採用後1か月の感想を聞きました。(令和8年5月13日取材)

校長自ら動く姿で、学校に新しい風を

子どもたちは素直で、校長にも気軽に声をかけてくれます。そうした何気ないやり取りができることを、とても嬉しく感じています。

私は教員免許を持っておらず、授業の専門家ではありません。民間企業では長年、自分の考えやアイデアを相手に伝え、共感を得ながら仕事を進めてきました。その経験を生かし、総合的な学習の時間などで、資料を作るだけでなく、自分の考えや思いを伝え、相手を動かすプレゼンテーションについて、子どもたちと一緒に学んでいきたいと考えています。

校長自身が積極的に学校の教育活動にかかわる姿を見せることで、教職員のみなさんにも新たな刺激や気づきを届けられればと思っています。

地域を知り、地域とつながる

私はできるだけ地域を歩くようにしています。朝は子どもたちの登校を見守る地域の方々と一緒に通学路に立ち、週末には地域行事に参加したり、子ども食堂を訪れたりしています。学校では見られない子どもたちの姿に出会うこともあり、多くの学びがあります。

学校をより良くしていくためには、学校のことだけでなく、地域のこと

を知ることも大切だと考えています。地域のみなさんとのつながりを広げ、そのご縁を将来、子どもたちの学びや成長につなげていきたいと思っています。自治連合会のみなさまをはじめ、地域の方々はとても協力的です。また、PTAの皆様もメリハリのある運営を目指して活動されています。学校・家庭・地域が連携しながら、子どもたちを支えていく関係づくりを大切にしています。

オープンマインドで情報発信

まずは、自分のことを知ってもらいたいと思い、教職員向けに新聞を発行し、自分の考えや思いを発信しています。

先日、国語の学習の一環として、子どもたちから「小学校時代に夢中になっていたこと」についてインタビューを受けました。その内容を新聞で紹介したところ、多くの反響をいただきました。

その経験を通して改めて感じたのは、小学校時代の出来事や、その時に先生からかけてもらった言葉は、大人になっても心に残り続けるということです。また、自分自身の経験や思いを語ることで、相手との距離が縮まり、新たな対話が生まれることも実感しました。

民間企業でも学校でも、人と人との信頼関係がすべての土台になると考えています。そのため、自分から積極的に考えや思いを発信し、教職員の皆さんとの対話を大切にしています。

応募を考えているみなさんへ

学校は、子どもたちを支援し、育てていく場です。しかし同時に、大人である私たち自身も学び、成長できる場だと思っています。子どもたちと向き合う中で、自分が大切にしてきたことや、当たり前だと思っていたこと、そしていつの間にか忘れていたことを改めて思い出し、学び直すことができます。民間企業で培った経験を学校経営に生かしながら、私自身も日々学び続けています。

ぜひみなさんも、それぞれの経験や強みを生かして、堺市の子どもたちの未来のために挑戦してみませんか。堺市の任期付校長として、ともに新しい学校づくりに取り組める仲間が増えることを願っています。